

## 性差医学に関する講義を行いました

ONLINE

5月19日と5月26日に、講師にきらめきプロジェクトOGである、国立病院機構九州がんセンター乳腺科部長 徳永えり子先生と、医療法人たかやま内科医院 院長

雨宮直子先生を講師として、性差医学に関する講義を行いました。乳がん治療などの乳腺外科の立場から、また女性性外来や心療内科の立場から性差医療についてお話をしていただきました。学生にとって性差医療の大切さを学ぶ良い機会になったようです。こちらも、対面式ではなく遠隔講義となりました。



### 学生の感想(抜粋)

\*この授業を通して、疾患にこれでもかというほど性差があるのを学習することができた。また治療とは単に病原を消滅させることではないことを学んだ。患者さんとその後の人生という意味で大いに異なっていて様々な状況があるのだな、と思った。

\*男性で分かってきたことが女性にすべて当てはまるわけではない、男女それぞれの事情や立場、考え方がある、といったことを考えると、がんの治療に性差医学、性差医療は欠かせないと思いました。

\*患者さん一人一人に寄り添い、状況に応じて納得していただける医療を提供することが大切なのだと考えさせられました。貴重なお話をありがとうございました。

\*先生の、男女を対等に見た上で性差を考慮し医療を実践するという考え・姿にとっても賛成です。

\*具体的な患者さんの例があったのでよりイメージが湧いたり講義内容を近いものに感じることができました。



徳永先生



雨宮先生(遠隔地より)

# きらめき通信 vol.57

2020年7月(隔月発行)

## キャリア・ジェンダーに関する講義を行いました

ONLINE

医学部2年生を対象に、きらめきプロジェクトの責任者である加藤聖子と顧問である樗木晶子が、実体験や、専門の観点よりキャリア・ジェンダーに関する講義を行いました。今回は、新型コロナウイルス感染症予防および感染拡大防止対策により、対面式ではなく遠隔講義となりました。



樗木先生

日時 令和2年4月16日 3・4限目  
対象 医学部2年生 120名  
講師 きらめきプロジェクト  
プログラム責任者：加藤聖子  
顧問：樗木晶子



加藤先生

### 学生の感想(抜粋)

\*私は中学から男子校に通っていて、女性のライフスタイルなどを知る機会があまりなかったので今回の授業はとても実りあるものでした。医学科生の中には私のような人も多いと思うので、乳癌や更年期障害などを男性医師に講義するのはすごくいいと思いました。

\*自分は男なので女性特有の問題についてはどうしても他人事な部分が拭えないが、それでもしっかりと理解しようと努めるべきだと再確認した。

\*女性のキャリアをお産などで中断せずに仕事に関われた方が社会全体として利益となるという考え方は初めて聞いたものだったので新鮮だった。男女が平等に働くことのできる制度作りももちろんのこと、私たち自身の意識も変えていくことが大切だと感じた。

九州大学病院 臨床教育研修センター  
きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX : 092-642-5203

MAIL : kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL : <https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/>



## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します



## ★自己紹介

卒後12年目の内科医です。夫、小学1年生と3歳児の息子の4人家族です。2019年度秋から、きらめきプロジェクトに所属させていただいております。

## ★きらめきプロジェクトに所属するまで

第1子を出産後に1年間育児休業をとり、その後健診センターの内科勤務をさせていただきました。当初、出産後は簡単に仕事復帰できると楽観的に考えていたのですが、1歳児を保育園に入園させた数日後に発熱をして職場に電話がかかってきました。治ったと安堵し、保育園に預けたら次は嘔吐下痢症を発症するという負のループを繰り返し、半年間仕事もままならず心身ともに疲れてしまったせいもあるのか、子供の風邪がうつり自分が病気になってしまいました。そのような経緯もあり、第2子出産後は子供が3歳になるまでしばらく育児に専念することにいたしました。2019年になり、第2子も3歳になるためそろそろ職場復帰をしようかと考えていた際、当時の医局長からきらめきプロジェクトの秋募集があると伺い、応募させていただきました。自身の復職にあたり、このような復職支援をしていただけてとてもありがたく、感謝しております。実際勤務を開始し、育児と仕事の両立をされている先生方がたくさんいらっしゃり、とても刺激をうけております。

長期間休職していたため、まだまだ浦島太郎状態ではありますが、きらめきプロジェクトのスタッフの皆様や周囲のサポートに支えられ、日々勉強させていただいております。現状に甘んじることなく、まずは専門医の取得をしていきたいと考えております。



きらめきプロジェクト所属2年目、卒後22年目の医師です。卒後4年目の転科、配偶者の留学や二児の出産などでなかなか継続して勤務することができず、卒後15年目ようやく専門医を、20年目に指導医を取得することができました。家庭と仕事を両立することに精いっぱい、与えられた勤務地で目の前の仕事を時間内にこなすだけでしたが、現在卒後20年目を過ぎて、ようやく仕事へのやりがいや、求めたい専門性などへ目を向けることができました。きらめきプロジェクトを利用させていただき、市中病院で働きながら、ブラッシュアップのために大学病院で週に1日働かせていただいております。

前述しましたように、医師として伸び盛りの時期に仕事に専従できず、焦り、劣等感に苦しみましたが、きらめきプロジェクトをはじめ、そのような状況下の医師が働き続けることへの理解やサポートのおかげで、牛歩ながらキャリアアップすることができています。

きらめきプロジェクトには、顧問の樗木晶子先生やプログラム責任者の加藤聖子先生のように、苦境をものともせず素晴らしいキャリアをお持ちの先生方がいらっしゃいます。レベルは桁違いに低いですが、これからも自分なりの目標に向けて研鑽を積みみたいと思います。

